

令和6年（2024年）6月11日

第2回立地適正化計画専門部会 会 議 要 旨

事務局

都市整備局都市計画課

**第2回立地適正化計画専門部会
会議要旨**

1 開催日時

令和6年（2024年）6月11日（火） 午後2時00分

2 開催場所

広島市役所 本庁舎14階第5会議室西側

3 出席委員

田中部会長、佐名田副部会長、神田委員、加藤委員、内田委員

4 傍聴人

一般 0名

報道関係 0名

5 閉会

午後3時10分

防災指針骨子案について

【防災指針の基本的な考え方について】

(田中部会長)

- 立地適正化計画の本来の考え方として、エリアごとの人口の変動などを加味しながら居住誘導区域を設定することがあると思う。広島市の場合は、市街化区域を基本として居住誘導区域を設定しているが、居住誘導区域の考え方について、エリアごとの人口の変動等にも触れながら説明するなど、より丁寧に説明の方がよいのではないかな。

【災害ハザード情報等の整理について】

(内田委員)

- 災害規模の説明において、内水のみ具体的な記述になっていること、津波の基準水位の意味が分かりづらいことなどがあるため、書き方の工夫ができるといい。

【災害リスクの分析について】

(佐名田副部長)

- 災害リスクの見える化という中で、防災指針においては複数の災害を重ね合わせることは行わず、防災ポータルやPLATEAU(プラトー: 3D都市モデル)などで市民自らが確認をすることのだが、防災ポータルサイト上で重ね合わせたとしても色が重なるだけで凡例もなく危険度も分からない。また、PLATEAUについては操作方法も分かりづらく、災害リスクまでたどり着けなかった。防災指針の中で、リンクを張るなど、インターネットに不慣れな人でもここを見ることが誘導できるといい。

(加藤委員)

- 土砂災害警戒区域は、点在ではなく連なっているものであるため、修正が必要である。
- 市民に対して災害リスクの現状を説明する中で、過去の災害での被害状況や頻度などを記載するなど、その災害によって引き起こされる被害についても記述があるといい。

- 土砂災害（特別）警戒区域は、居住者がソフト対策に気を付けるべき場所であり、同区域外だから安全ということではないので、市民が誤解を招かないようにしてもらいたい。

（内田委員）

- 洪水における災害リスクの分析の例として、計画規模の災害ハザード情報を示しているため、河川沿いにかかわらず、浸水想定区域ではなく安全に見えるエリアがあるが、浸水想定区域と安全面が大きく異なるわけではないので、誤解を招かないようにしてもらいたい。

【取組方針について】

（神田委員）

- 取組方針の分類において、「リスク低減（ソフト）」は、確実な避難や経済被害軽減、早期の復旧・復興のための対策となっているが、取組方針の中に後ろ2つの考え方が見当たらない。取組方針を検討する中で、この2つの考え方が抜けてしまっているのではないか。

（加藤委員）

- 取組方針の分類において、「リスク低減（ハード）」のみ具体的な記述になっているため、他の分類と整合を図る方がよい。
- 地震でのリアルタイムの情報提供は難しいのではないか。
- 地震に対するリスク回避として居住の誘導とあるが、実際に施策により、震度6弱が想定される区域から震度5弱が想定される区域に誘導をすることはないと思われるので、書きぶりを修正する方がよい。

（内田委員）

- リスク低減（ハード）のとして、都市計画制度を活用した浸水対策があるのであれば、取組方針に、都市計画制度の活用も入っていることを書くといいのではないか。